

全世帯新聞

-第15号- 2022年7月発行

愛知学童保育連絡協議会
(名古屋市熱田区沢下町 9-7-308)
TEL : 052 - 872 - 1972
FAX : 052 - 308 - 3324
e-mail :
aichigakudou@gakudou.biz
URL :
<http://gakudou.me/>

LINE OPEN CHAT
「gakuiu」で
登録願います



各 SNS の QR コード

愛知学童保育連絡協議会の“50年を振り返る”

愛知学童保育連絡協議会（以下、県連協）は、2022年で53年目に突入しました！

■県連協発行50周年記念誌から様々な活動などをピックアップ

【はじめに】

近年、学童保育を取り巻く状況は大きく変わっています。学童保育数は1180箇所（支援の単位数は1638箇所）、入所児童総数は5万8887人（あいちの学童保育情報ハンドブックより）となっており、5年前と比較すると学童保育所数は約8%、入所児童総数は約13%も増えています。

厚生労働省の調査（2021年 放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）の実施状況（2021年5月1日現在））では、登録児童数134万8275人、放課後児童クラブ数2万6925箇所、放課後児童クラブの支援の単位数3万5

398支援の単位と過去最高を更新しており、全国的にも学童保育のニーズは年々、増え続けています。子育て世代の生活環境の変化に、児童福祉政策が追いついておらず、現場に即した目標と改善施策と十分な予算を確保することが重要です。

そこで、学童保育指導員や保護者の声、子どもの声を組織し、一歩でも先に進めるために何が必要かを改善要求・要望として行政や協議会に働きかけるために連携があり、その役割は大きなものになっています。ここで簡単ではありますが、県連協の歴史を振り返りたいと思います。

【1970年代】

県連協は全国に先駆けて都道府県レベルでの連絡協議会で、第1回総会は19

70年に開催（結成は1969年11月30日。同日に第1回愛知学童保育研究集会を開催しています。）し、更に同年には全国学童保育研究集会（以下、全国研）を名古屋で開催（東京以外での初開催）しています。

また1976年には、県連協として初めての請願署名を集めて、提出しています。

第1回合宿研（現在の名称は、みんなで話そう学童保育ひろば）は、1977年に始まっています。

1978年には豊橋市連協が結成、1979年には春日井市連協が結成されています。この頃から地域での連絡協議会の創設や結成が続いていきます。

【1980年代】

1981年には名古屋

連協、1985年には大府市連協が結成され、連協による運動が発展し始めた時期です。

1987年には、第22回全国研が開催されています。

【1990年代】

1992年に専従事務局体制が確立され、事務局の仕事量が増え、かつ重要度が高くなってきた事が分かります。

CONTENTS

p.1~3

・県連協の“50年を振り返る”

p.4

・地域連協紹介（大府市より）

・四コマ漫画



西暦(年)	
1970	◎第1回総会 ★第5回全国研
1976	◎請願署名を初提出
1977	◎第1回合宿研
1978	*豊橋市連協結成
1979	*春日井市連協議結成
1981	*名古屋市連協結成
1985	*大府市連協結成
1987	★第22回全国研
1992	◎専従事務局体制の確立
1994	*津島市連協結成 *半田市連協結成

県連協や加盟地域連協、その他の大きな動き

1994年には津島市と半田市に連協が結成されており、各地で学童保育における運動に組織的な取り組みが必要であることが認識されたと思います。

1998年には放課後児童を保育する需要の高まりもあり、児童福祉法に基づく放課後児童健全育成事業を行う第二種社会福祉事業として、法制化されています。

【2000年代】

2006年には自治体キヤラバンが始まり、2008年には「あいちの学童保育情報ハンドブック」の発行を開始しています。

2007年、国は総合的な放課後対策を推進するため、「放課後児童クラブガイドライン」を策定しています。

2009年には、特定非

営利活動法人として、学童保育指導員協会が結成されています。

【2010年代】

2011年には東日本大震災で甚大な被害が生じました。被災した子どもたちが学童保育を利用できるように、また復旧・復興を支援するために、「えがおプロジェクト」を始動させて、現地に保育の応援へ行っています。

2014年に、豊川市連協が結成しています。

2015年には、子ども・子育て支援新制度が施行されています。

【最後に】

小一の壁と言われ出してから、かなり月日が経つたと記憶しています。保護者は勤務形態を変えたり、子どもの放課後の預け先を悩んだり、と様々な選択を迫

られます。

そんな中で、学童保育を利用できない世帯が今でも数多く存在しています。いつでも、どこでも、学童保育に入れるよう、数多くの課題を解決していく手立ての一つが連絡協議会です。

子ども、保護者、指導員、研究者など関係者が一丸となって取り組んだ運動は、今までもこれからも学童保育にとっての維持・発展に必ず繋がります。

半世紀前、希望と理想に燃えた先輩方がスタートさせた県連協が生き活きとした運動体として発展できるように、わたしたち一人一人が学び、交流し、育ち合っ

て、組織を強くしていきたいと思います。

(記念誌から参考にした箇所がいくつもあります。また署名提出や合宿研、自治体キヤラバン、あいちの学童保育情報ハンドブック発行などは、その後、毎年実施しています。)

2016	2015	2014	2011	2009	2008	2007	2006	1998	1996
★第51回全国研	■子ども・子育て支援新制度施行	*豊川市連協結成	◎東日本大震災支援として、「えがおプロジェクト」始動	*特定非営利活動法人学童保育指導員協会結成	◎「あいちの学童保育情報ハンドブック」発行	■放課後児童クラブガイドライン策定（厚生労働省）	◎自治体キャラバン ★第41回全国研	■児童福祉法に法制化 ◇大府市で公立の学童保育「放課後クラブ」開設	★第31回全国研



50周年記念パーティーの様子

行ホリ来たりにして 大きくなるんだわ



♡チャコ作♡

☆ 編集後記 ☆

あるゲームをコツコツ続けていたら、なんとプレイ時間が3,000時間を超えていました。少しだけ、自慢! ? 出来ることが増えました www

これからの大府市連協がますます楽しみです。(県連協役員)

とても笑顔がよく似合うお二人から、連協に携わることになったきっかけや今後の抱負について、語っていただきました。

地域連協の紹介

今回は大府市学童保育連絡協議会（以下、大府市連協）で頑張っている保護者を紹介します。大府市連協は、保護者会運営の「どろんこクラブ」と「わんぱくクラブ」の2箇所で開催しています。（市内には他にNPO 運営のキッズクラブ、公設の放課後クラブがあります。）

その大府市連協現会長の鈴木さんと事務局（前会長）久野さんから、お話を聞きしました。

★鈴木 敬升さん★

学童に入ったばかりの頃は右も左も分からず、何となく過ごしていました。そのうち学童保育の大切さに気づき、学童が存続できるように、何か役に立てることはないかと思い始めた矢先です。当時の大府市連協会長に誘われ、事務局を経て、2022年度に会長に就くことになりました。

これからは大府市連協の活動を通じて、行政との繋

がり、特に市長への働きかけや保護者と大府市連協の関わりを深めたいです。

★久野 舞さん★

なかなか学童のイベントなどにも参加できず、普段から関わりが薄かった為、指導員や保護者との距離があると感じていました。また、コミュニケーション不足も。

ある時、学童が苦勞して良くなってきたことや運営

し続けていられるのは諸先輩方の尽力だと知り、大府市連協なら自分でも何かお手伝いできるのでは、一念発起しました。大府市への提出する要望書の作成、市会議員との面会を積極的に行えるよう努力してきました。

今後は、大府市連協の2つのクラブの連携強化や公設民営に向けての取り組みにも、頑張っていきたいです。



左：久野さん 右：鈴木さん

